

再評価項目調書

再評価実施要件		○ 事業採択後 () 年 ● 再評価後 (5 年) ○ その他 ()					
1 事業概要	事業名	あらきがわ 荒木川 周防高潮対策事業					
	事業場所	熊毛郡平生町佐賀地内					
	事業主体	山口県					
	事業期間	《前回評価 平成 26 年時》 平成 17 年度 ~ 令和 8 年度 《平成 30 年度》 (西暦 2005 年度 ~ 西暦 2026 年度 《西暦 2018 年度》)					
	総事業費 (内用地補償費)	《 693 百万円》 693 百万円 (165 百万円)	既投資額 (内用地補償費)	464 百万円 (165 百万円)	進捗率 (用地補償費)	67 % (100 %)	
	事業目的	あらきがわ 荒木川は、平生町大星山を源とし、瀬戸内海に注ぐ流域面積1.6km ² 、流路延長2.2kmの二級河川である。 荒木川流域のうち、当該地域については、家屋が密集しており、県道光上関線等の主要な交通網も整備されている。 しかしながら、高潮に対する安全度が低く、平成11年9月の台風18号により浸水被害が発生していることから、同規模の台風に対応した高潮対策を実施し、浸水被害の軽減を図る。					
	事業内容	延長L=200m (防潮堤工、河道掘削工、橋梁工) 計画堤防高 T.P. +3.80~3.70m 高潮対策の設計高潮位 H.H.W.L.=T.P. +3.47m 洪水対策の整備規模 年超過確率1/10					
事業効果	高潮対策における浸水被害防止効果 浸水戸数 75 戸 → 0 戸 浸水面積 2.5 ha → 0 ha 被害額 778 百万円 → 0 百万円 平成11年9月の台風18号の高潮時における浸水被害防止効果 浸水戸数 23 戸 → 0 戸 浸水面積 0.6 ha → 0 ha 被害額 74 百万円 → 0 百万円						
2 再評価の視点	(1) 社会経済情勢の変化	浸水区域に関する指標のうち、人口、世帯数は、前回評価から減少傾向であるものの、整備する護岸背後に家屋等が隣接しており、高潮対策の必要性は依然として高い。 【浸水区域に関する指標の変化(国勢調査)】 《佐賀地区》 ○人口：0.88倍(2,391/2,725人) <H27/H22> ○世帯数：0.90倍(681/758世帯) <H27/H22> 《参考：県全体》 ○人口：0.97倍(1,405/1,451千人) <H27/H22> ○世帯数：1.00倍(597/596千世帯) <H27/H22>				中項目評価	大項目評価
	関係市町及び地元の意向	地元住民の防災意識、関心度は高く、これまでの高潮による浸水被害の経験から、地域住民の被害軽減に対する要望は強い。				中項目評価	

2 再評価の視点	(2) 事業の投資効果	費用対効果分析等	(単位：百万円)	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th rowspan="2">主な項目</th> <th>前回 (基準年：H26)</th> <th colspan="2">今回(再々評価) (基準年：R1)</th> <th rowspan="2">備考</th> </tr> <tr> <th>全体事業</th> <th>全体事業</th> <th>残事業</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="5">便益 (B)</td> <td>①一般資産被害軽減便益</td> <td style="text-align: center;">437</td> <td style="text-align: center;">420</td> <td style="text-align: center;">420</td> <td></td> </tr> <tr> <td>②農作物被害軽減便益</td> <td style="text-align: center;">3</td> <td style="text-align: center;">3</td> <td style="text-align: center;">3</td> <td></td> </tr> <tr> <td>③公共土木施設等被害軽減便益</td> <td style="text-align: center;">787</td> <td style="text-align: center;">755</td> <td style="text-align: center;">755</td> <td></td> </tr> <tr> <td>④その他の便益</td> <td style="text-align: center;">22</td> <td style="text-align: center;">20</td> <td style="text-align: center;">19</td> <td></td> </tr> <tr> <td>総便益</td> <td style="text-align: center;">1,249</td> <td style="text-align: center;">1,198</td> <td style="text-align: center;">1,197</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="4">費用 (C)</td> <td>①事業費</td> <td style="text-align: center;">715</td> <td style="text-align: center;">854</td> <td style="text-align: center;">236</td> <td></td> </tr> <tr> <td>②維持管理費</td> <td style="text-align: center;">82</td> <td style="text-align: center;">96</td> <td style="text-align: center;">27</td> <td></td> </tr> <tr> <td>③その他</td> <td style="text-align: center;">0</td> <td style="text-align: center;">0</td> <td style="text-align: center;">0</td> <td></td> </tr> <tr> <td>総費用</td> <td style="text-align: center;">797</td> <td style="text-align: center;">950</td> <td style="text-align: center;">263</td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="2">費用便益比(B/C)</td> <td style="text-align: center;">1.6</td> <td style="text-align: center;">1.3</td> <td style="text-align: center;">4.6</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>※ 便益(B)・費用(C)は、算出した各年次の値を割引率を用いて現在価値に換算した合計額</p> <p>【費用対効果分析手法】</p> <p>○根拠マニュアル 海岸事業の費用便益分析指針(平成16年6月) 農林水産省農村振興局、農林水産省水産庁、国土交通省河川局、国土交通省港湾局 治水経済調査マニュアル(案)平成17年4月 国土交通省河川局</p> <p>○各便益の説明 ①一般資産被害軽減便益：整備により軽減される家屋、事務所、農漁家の資産被害額 ②農作物被害軽減便益：整備により軽減される農作物被害額 ③公共土木施設等被害軽減便益：整備により軽減される公共土木施設等(道路、農地、農業用施設等)の被害額 ④その他の便益：施設の残存価値、公益事業等被害額</p>	区分	主な項目	前回 (基準年：H26)	今回(再々評価) (基準年：R1)		備考	全体事業	全体事業	残事業	便益 (B)	①一般資産被害軽減便益	437	420	420		②農作物被害軽減便益	3	3	3		③公共土木施設等被害軽減便益	787	755	755		④その他の便益	22	20	19		総便益	1,249	1,198	1,197		費用 (C)	①事業費	715	854	236		②維持管理費	82	96	27		③その他	0	0	0		総費用	797	950	263		費用便益比(B/C)		1.6	1.3	4.6		大項目 評価 A ● B ● C
		区分	主な項目	前回 (基準年：H26)			今回(再々評価) (基準年：R1)		備考																																																										
				全体事業	全体事業	残事業																																																													
		便益 (B)	①一般資産被害軽減便益	437	420	420																																																													
②農作物被害軽減便益	3		3	3																																																															
③公共土木施設等被害軽減便益	787		755	755																																																															
④その他の便益	22		20	19																																																															
総便益	1,249		1,198	1,197																																																															
費用 (C)	①事業費	715	854	236																																																															
	②維持管理費	82	96	27																																																															
	③その他	0	0	0																																																															
	総費用	797	950	263																																																															
費用便益比(B/C)		1.6	1.3	4.6																																																															
(3) 事業の進捗	事業の進捗と今後の見通し	<p>事業延長200mのうち、第2荒木橋から佐賀中央5号線橋付近までの120mについて、防潮堤の整備が完了しており、高潮に対する防護機能が向上している。 残工事において、事業進捗における阻害要因はなく、今後も計画的な進捗が見込まれることから、引き続き、上流に向けて高潮対策を行い、浸水被害の軽減に努める。</p> <p>【事業費の変化】 有 (無)</p> <p>【事業期間の変化】 (有) 無</p> <p>用地取得に時間を要したため、事業期間を延伸する。</p>	大項目 評価 (A) ● B ● C																																																																
	(4) コスト削減の可能性	<p>コスト削減</p> <p>発生土砂の現場内流用や他工事への流用を積極的に行い、土砂の有効利用を図る。</p> <p>代替案</p> <p>代替案として「水門+排水機場案」が考えられるが、経済性等の観点から現計画の「防潮堤の整備案」は妥当である。</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: center;">中項目 評価</td> <td style="text-align: center;">大項目 評価</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">(a) b</td> <td style="text-align: center;">(A) ● B ● C</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">中項目 評価</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">(a) b</td> <td></td> </tr> </table>	中項目 評価	大項目 評価	(a) b	(A) ● B ● C	中項目 評価		(a) b																																																									
中項目 評価	大項目 評価																																																																		
(a) b	(A) ● B ● C																																																																		
中項目 評価																																																																			
(a) b																																																																			
3 環境	配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> ・低騒音・低振動の建設機械を使用する。 ・汚濁防止対策として、河川内工事に際しては、汚濁防止膜等を設置する。 ・寄せ石等により、小型魚類や底生生物の生息環境を確保する。 																																																																	
4 対応方針	総合評価	● 継続 ○ 見直し継続 ○ 中止																																																																	
	評価理由	事業の必要性、費用対効果等を勘案し、事業継続が妥当と判断する。																																																																	
	備考																																																																		

あらきがわ
荒木川 周防高潮対策事業



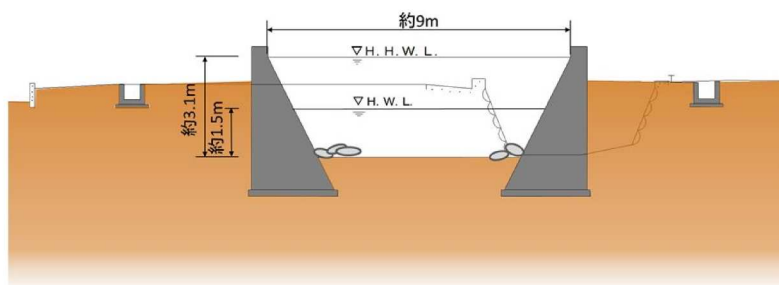
- 凡例
- 施工済区間
 - 未施工区間



事業区間 (第2荒木橋～佐賀中央5号線橋)



標準断面図 (第2荒木橋～佐賀中央5号線橋)



この地図は、国土地理院の地理院地図(電子国土Web)の一部を掲載したものである。